特

託

試

験

### CIEL社との提携で新サ DRC 頭皮ラボ」 |はビッグデータ化が進む ービス開始

開発から有効性試験まで 社=東京)と業務提携を する体制を整えた。 っているCIEL社(本 粧品の研究サポートや開 新しいサービスを創出し 社との連携・協業を進め、 の有効活用を目的に、他 点(フランス・中国・タイ) 発コンサルティングを行 ている。今年1月には化 一貫したサービスを提供 DRCは、自社リソース に評価試験施設を構える 国内3拠点・海外3拠 可能」(同社)だという。 り、処方開発時から有効 貢献していく考えだ。 要度が高まっている。C 大にともない、第三者機 ピード向上と効率化にも 早まる中、製品開発のス トレンドの移り変わりが ンスを狙った製品開発が 設定し、「良質なエビデ 性評価のアウトプットを 関による評価データの重 訴求した化粧品の需要拡 IEL社との提携によ 機能性のエビデンスを との想いがある。 していきたい」(同社) より、新しいサービスの トフォーム 「頭皮ラボ」 ケアのプラッ けの髪・頭皮 組む消費者向 協業して取り で、美容室と 身近に感じられる業界に は、「評価試験をもっと 創出・構築を図る背景に (写真)では、 その取り組みの一

ラボで集積したデータは 早期戦力化や物販の売上 プに加え、若手美容師の 上や店舗のイメージアッ 美容室の顧客満足度の向 アサービスを提供する。 組み合わせ、髪・頭皮ケ 口視点でのアドバイスを の定量評価と美容師のプ 拡大が期待できる。頭皮

生活の中で試験データを

集まっているという。 000名の頭皮データが スタートした。早くも3 データの収集を本格的に 髪・頭皮に関する同社 いう。

加価値向上を支援してい 皮のビッグデータ化を進 め、美容室や美容師の付 する美容室を増やして頭 同社は、「今後も提携 LA」 が好調だ。 SOL は、フランスにあるex Aでは、 摘出皮膚を用い ViVo試験施設「SO に試験受託やオープンラ 既存の試験サービスで ているという。 試験機関「迪而璽(広州)

身近に感じられる取り組 でにない評価を期待した る。

トライアルから、リピー ト依頼をする企業が増え 同社が中国で運営する 自社ラボで測定値の相関 託している。施設間差が 課題となっているSPF 試験では、日本と中国の を検証しており、日本で 試験をワンストップで受

用できる可能性もあるとみを進める考えを示して メーカーの製品開発に活 は、日本でも徐々に認知 度が高まっており、今ま ex vivo試験 A申請代行業務と申請用

予備測定を行った後に中

皮labo

化粧品・医薬部外品・食品の 安全性及び有効性試験の受託会社

SPF/UVAPF試験 ) 安全性試験 ) 有効性試験 ) in vitro 試験

私たちDRCは、化粧品・医薬部外品・食品の 分野で質の高い評価を通じて、人と社会に貢献します

〒530-0044 大阪市北区紅梅町2-6 TEL:06-6882-8201 FAX:06-6882-8202 Email: info@drc-web.co.jp HP: http://www.drc-web.co.jp/

## フェイスリサーチ

# コスパもタイパも良いパッチテスト 安全性試験のQCDを今後も追求

トに特化した評価機関と は、化粧品のパッチテス いパッチテストを委託し ch、本社=名古屋市) aith Resear スト・納期)を追求した に貢献していく。原料や フェイスリサーチ(F り安全・安心な製品開発 始している。信頼性の高 22年7月から提供を開 サービスを構築し、20 も増えているという。 チテストとしてリピート も「タイパ」も高いパッ た企業からは、「コスパ」 最終製品の開発で利用し して国内外で20年以上、 料や製品の評価試験を行 っているDRC社(本社 独自の自動化システムの 化粧品・医薬部外品の原

大阪市)との連携と、

Faith Resea ·チが選ばれる **3**つの理由! フェイスリサ 万 以上 迅速な結果報告で お待たせいたしません コストパフォーマンス

展示会でもパッチテストのQCDをアピール

品質の高いパ 構築により、

ッチ 万5000円で実施でき で、パッチテスト以外の

試験についての相談や問

検体の契約では1検体4

ているDRC社との連携

が安くなり、年間100 て1検体あたりの価格 を提供する。 保し、1検体7万 円でパッチテスト のノウハウを活か するなどDR 契約の検体数は して試験品質を

れまで1万検体以 テストを、安く 短納期で提供する。 つ皮膚科医が担当 の判定実績をも 試験判定は、 程度、定期的に実施し、はパッチテストを月1回 を抑え、納期を短くする とで、パッチテストの判 定は高品質のまま、価格 業務効率化につなげるこ 動化システムを構築し、 など事務作業を中心に自 ことに成功した。同社で 報告書や見積りの作成

った。

評価機関だが、将来的に

現在はパッチテストの

サービス認知の向上を図 DRC社と共同出展し、 催された「COSME 今年1月には、都内で開 い合わせにも対応する。

Week 【東京】 」にて、

の試験報告書を発行して 試験後5営業日でPDF 広いニーズに応えるサー 対して、製品開発者の幅 は「安全性の定型試験に

様々な評価試験を行っく」(同社)という。

特 集 受 託 試

験